

## 第5回

# しそく教育創造フォーラム

## 記 録

(要点筆記)

日時 令和7年11月29日(土) 13時45分から

場所 宍粟市役所 4階 401・402・403会議室

(中田課長)

皆様、こんにちは。ただいまから、第5回宍粟教育創造フォーラムを開催いたします。

本日は、部活動の地域展開がメインテーマでございます。

第一部としましては「事業説明」、第2部としまして「パネルディスカッション」を予定しております。本来でありましたら、本日お越し頂いておりますパネリストの皆様の紹介等を最初に行えばよろしいのですが、貴重な時間でもございますので、第2部で、コーディネーターの縄手様をお願いしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

では、まず初めに、御手元の資料と、それから、画面のスライドショーは同じでございますので、どちらでも見やすいほうを御覧ください。

## 第1部 行政説明

(中田課長)

初めに宍粟市宍粟市教育委員会が進めております、宍粟市部活動地域展開について説明をいたします。

生徒が自主的、自発的に参加し、教職員である、部活動顧問の献身的な働きと保護者や地域住民の支援のもと、学校教育の一環として実施されてまいりました、中学校の部活動は、生徒の体力や知識、技能の向上はもとより、主体性や社会性・豊かな人間性など、心身の健全な育成に大きな役割を果たしてまいりました。

しかし、近年の少子化の進行に伴います生徒数の減少や働き方改革の観点からも、部活動指導を行う教職員の負担が過重になっており、従来どおりの学校部活動を維持運営することが全国的に困難な状況になっております。そのような中、国が進めてまいりました部活動改革について、最初に説明いたします。学校部活動は、スポーツ、文化芸術活動に興味関心のある同好の生徒が参加し、各部活動の責任者であります部活動顧問の指導のもと、我が国のスポーツ、文化芸術振興を支えてまいりました。

そのような中、国は教職員の働き方改革の一環から、顧問教員の超過勤務の増大と少子化によります、先ほど申しました部員数や顧問数の減少を問題と捉え、持続可能な部活動の在り方を考えるようガイドラインに示したのが、平成30年、2018年でございます。本市においても、国や県の考え方を参酌しました「宍粟の部活動いきいきプラン」を策定いたしました。この段階で、最も学校現場にとって大きな変革だったのは、平日1日、休日1日合計週2日のノー部活動デーが設定されたことです。

ちなみに、この週2日ノー部活デーを設定したプランを策定しましたが、もう8年も前のことなのですが、この週2日を休日を設定するという点については、今回実施しているような部活動の地域展開のスケールと比べると、皆様にとっては小さなことかと思われかと思いますが、当時、市内の先生方、皆さんの理解を得て、この週2日のノー部活デーの設定を含めた、このプランの策定について、国や県の施策等にのっとって作成するのに、1年半という歳月が費やされました。それだけ部活動が、中学校の毎日の生活の中で大きな存在を占めていたということが分かると思います。

さらに、もう一つの大きな転換期としまして、令和2年9月、文科省・スポーツ庁・文化庁からの通知でございます。学校の働き方改革を踏まえた部活動改革が示されました。こちらでは、教職員の長時間勤務を解消し、持続可能なスポーツや文化芸術活動の体制構築のため、休日の部活動を段階的に地域へ移行することが基本方針とされました。この改革は、教職員の負担軽減、

生徒の多様な活動機会の創造が目的とされ、合理化、効率化を進めながらも、将来的には学校単位から地域単位でのスポーツ、文化芸術活動への移行をめざすものでございました。

そして、令和7年、本年5月、国は、部活動改革に関する実行会議において「最終の取りまとめ」を示しました。その中で、国は、学校単位で部活動として行われてきた、スポーツ・文化芸術活動を地域全体で関係者が連携して支える、生徒の豊かで幅広い活動機会を包括的に企画調整する改革の方針を決定しました。

それでは、今、お話したような国の方針が示される中で、本市の中学校の状況を少しご説明いたします。

宍粟市の中学校においても、生徒数の急速な減少のため、部員募集停止、休部、廃部や複数校による合同チームでの大会参加など、深刻な状況を迎えております。表の1番上にあります山崎西中学校を少し例に挙げさせていただきますと、令和7年度の全校生徒を100と考えたとき、令和12年生徒数の割合が73.3%になると見込まれておりまして、26.7%の減少となっています。同様に、他の中学校においても、急速に生徒数が減少していくことが見てとれると思います。

このような状況から、宍粟市における部活動改革も、国や県が述べているのと同様に大きな課題となっていることが分かります。

続きまして、こちらは宍粟市学校別の部活動の実施状況、あるいは部員数を示した表でございます。現在、生徒が多く所属している部活動を挙げますと、男子卓球、女子バレー、吹奏楽でございます。また、先ほどから少し出ております合同チームでございますが、令和7年5月、今の中学校3年生が在籍している段階では、野球部の中では山崎南中と一宮南中の合同チーム、一宮北中と波賀中の合同チーム、2チームがございます。2チームですが4校でございますので、市内の中学校は7校、7校中の4校が合同チームという状況です。ソフトボールは一宮南中と一宮北中で合同チーム、男子バレー部では山崎南中と波賀中で合同チームが活動されています。

この夏、3年生が引退した後、8月以降の中学校2年生を中心とした新チームでは、野球部では一宮北・一宮南の合同チーム、波賀・山崎南の合同チームの合計2チーム、ソフトボールは一宮北・山崎南、一宮南・山崎西、こちらは1チーム、夏よりも増えております。男子バレーボールは引き続き、波賀・山崎南が合同チームとして活動している状況です。このように、市内ほとんどの学校で合同チームで参加しなければならない状況が生まれております。

今、宍粟市の状況を説明いたしました。国が部活動の抱える課題として示している内容としましては、少子化の進行により、学校の小規模化が進み、従来同様、学校単位での部活動運営が難しくなっていること、専門性や先生方の希望の有無にかかわらず、教職員が顧問を務めていくこれまでの指導体制の継続は、学校の働き方改革を進める上でも困難であること、地域指導者や保護者にも働き方改革が求められる現代社会の時代背景への対応を挙げております。この国が掲げる状況は本市でも同様でございます。

今後は、学校部活動が担ってきた生徒の多様な体験機会を確保していくためにも、地域における持続可能で多様な、また宍粟市ならではのスポーツ・文化芸術環境の整備が必要となっております。そのためには、宍粟市でも部活動の地域展開、推進に係ります方針を定めながら、その改革の手順や方法を多くの皆様と共有しながら、宍粟市における部活動地域展開の課題を整理し、子どもたちが保護者、地域のスポーツや文化芸術団体の関係機関の皆様と丁寧に、また、段階的に計画的に部活動改革を進めていくことが大切だと捉えております。

このような状況を踏まえまして、本市においても、国や県の方針にのっとりまして、令和6年度には、中学校の運動部あるいは文化部活動の在り方について考える協議会を3回開催しまし

た。

今年度は、宍粟市部活動地域展開推進委員会を現在のところ、3回開催し、合計6回の多くの関係の皆様と協議を重ねながら、令和10年10月をめぐり中学3年生の引退の時期をもって、宍粟市の公立中学校の全ての部活動を地域展開していく宍粟市部活動地域展開推進方針を策定したところでございます。

今、お話ししました推進委員会ですが、推進委員会は、本日のパネリスト様にも参画頂いておりますが、教育委員会あるいは市の地域スポーツ・文化振興担当部署、社会教育担当部署、学校、保護者の皆様、地域のスポーツ芸術団体の皆様に委員として参画頂いてご意見を伺える体制を整えて会議を進めているところです。

今後、この推進方針に基づきまして、宍粟市の子どもたちが将来にわたり、スポーツあるいは文化芸術活動に継続して親しむことができる環境整備に向け、子どもたちの希望やニーズに応じた多様で豊かな地域クラブ活動の実現に向け、宍粟市の部活動の地域展開を推進していきたいと考えております。

推進方針の大きな柱として5点設定しております。

1点目が、将来にわたり、継続して親しむことができる環境づくり。2点目が、子どもたちの希望やニーズに応じた多様な活動の実現。3点目は、異世代との交流、あるいは、多様な体験が行われる地域活動。4点目が、教職員の超過勤務と業務改善をはじめとする働き方改革につながる活動。そして、今後の宍粟市の生涯スポーツ、生涯学習等の一層の充実をめざすものであり、この大きな五つの柱を設定しているところです。

先ほど、お話ししました5つの推進方針のポイントでございますが、それらを進めていく上で、本日は、方針の全てをここで読み上げていく時間がございませんのでポイントを絞ってお話しておりますが、5つの推進ポイントを推進していくための基本的な考え方としまして、宍粟市における地域展開がめざす姿としまして、宍粟市の子どもたちがスポーツや文化芸術活動に生涯にわたって親しめることができるような環境づくりを進めたいという願い・目標を掲げて考えて進めているところです。

地域あるいは学校の実情に応じた部活動の地域展開によります中学生の持続可能な活動機会の確保をめざしまして、10年、夏から秋頃にかけてまして、部活動の地域展開の全面スタートができますよう、現在も、先ほどお話ししました推進委員会の皆様の協力を得ながら、こちらも先ほどお話しした推進の方針5点のポイント等を重点的に協議、話し合いを進めているところです。

先ほどから私の説明で出てくる本市が組織している推進委員会のことでございますが、委員会の前身としまして、部活動の地域展開に向けた、国が示している市の役割の中に、関係者間の連携体制の構築ということが、掲げられておりますので、そのことから、令和6年に、委員会の前身ともなる、部活動の協議を進める協議会を発足させまして、協議を先ほどお話しした3回実施し、今年度は推進委員会を立ち上げ、その推進委員会を進めているところでございます。

あわせて、こちらも先ほどお話ししましたがアンケート等の実施も行い、広く市内のご関係の児童生徒や保護者の皆様から意見を頂きながら、この取組を進めているところです。

また、この秋には、市内各中学校から中学生に参加頂きまして、意見交換会を行ったり、それらいろんな取組の内容をまとめた、これまでの部活動地域展開の進捗状況を市のホームページに掲載したり、また、広報誌に進捗状況のリーフレットを盛り込んだりしながら、広く広報活動にも取り組みながら、この地域展開の協議を進めているところです。

文化庁やスポーツ庁からの事業としまして、令和6年度から国が進めている部活動の実証事業

というものにも取り組んでおります。その実証事業とは何かと申しますと、国が部活動地域展開に向けて環境整備を進めていく上で、様々な課題が発生するだろう、それらの課題について、本格的な実施の前に、様々な実証あるいは検証を各自治体でも進めることができるよう、国の予算を活用しながら進めている事業です。こちらの実証事業についても令和6年度から進めておまして、令和6年度にはカヌーと吹奏楽、令和7年度にはカヌー、吹奏楽、剣道に取り組んでいるところです。

この後のパネルディスカッションでは、令和8年度、次年度ですね、次年度のこの実証事業の取組種目についても、協議がなされるのではないかと考えております。

今、国が示す市の役割というところをお話ししましたが、もう一つ、学校の果たすべき役割についても、国は少し触れておりますので紹介します。

本市の中学校の中には既に合同チームによる活動を実施したり、団体種目を削減したりしながら、部活動を行っている学校が複数校あります。今後、学校と地域クラブ活動との連携においては、学校部活動の果たしてきた教育的意義や役割をうまくスムーズに継承発展させていく視点や、学校と地域クラブの間で生徒の活動状況に関する情報共有なども適切に行ったりすること、そういった視点も大切にしなければならないということが触れられております。

スクリーンに出ております、こちらは、新聞記事なんですけど、本日、コーディネーターをして頂いております縄手様からご提示頂いた新聞記事なんですけど、この新聞記事には、部活動がなくなるということで、本来の教師が持つ教師力が問われるようになるのではないかと、という内容が書かれています。例えば、分かりやすい授業、あるいは傾聴したり寄り添えたりする教師が、今以上に求められるようになるのではないかとこの意見が掲載されていたり、授業準備や教材研究、生徒指導など、本質的な教育活動への注力が大切になるのではないかとという記事が取り扱われております。

また、これまで、何度か出てきておりますこの推進委員会等でも、様々な協議が既に行われているわけですが、これまで実施された委員会、あるいは実施されたアンケート、先ほどお話に出てきた中学生の意見交換会などで、多くの保護者の皆様、あるいは地域の皆様、生徒、児童生徒たち、また、先生方から頂いた御意見の中で、特に課題として挙げられたものがございますので少しまとめて掲載しております。

提案頂いてる課題としては6点ございまして、1つ目が、地域クラブ指導者、あるいは活動団体をどう確保していくのか。2点目は、保護者や地域の皆様に、どのようにこの地域展開についてお伝えしていくのか。3点目は、中学校体育連盟が実施する大会あるいは文化芸術活動が参加しております大会やコンクールの参加に関わる要件や大会運営について。4点目が、教職員が兼職兼業を行う際の関わり方について。5点目は、公費負担の在り方、受益者負担水準の件について。最後は、北部地域も含め、中山間地域での子どもたちの地域活動へ参加するための送迎、あるいは学校間の距離の問題、こういったことが挙げられております。こちらの課題につきましても、この後のディスカッションでのテーマになるのではないかと考えております。

最後になりますが、本市の地域展開スケジュールを示したロードマップでございます。本市では、令和10年度の中学校3年生が部活動を引退する時期に合わせまして、部活動が終了され、地域クラブ活動が全面的に開始される時期となるスケジュールを作成して、現在そちらの環境整備に向け取り組んでいるところです。このスケジュールでは、現在の小学6年生は中学校3年生まで、引退するまで学校で部活動が存続していることとなります。しかし、小学校5年生は最後までではなく中学校2年生まで、小学校4年生は中学校1年生までは、部活動が存続している状

況ではございますが、その後は地域クラブ活動に参加する、過渡期の子どもたちになります。

このスケジュールを御覧頂くとお分かりかと思うのですが、先ほどから何度か触れました本市の部活動の地域展開の完全実施、令和10年の夏、このスケジュールの目標時期なんですが、小学校5年生あるいは小学校4年生の児童につきましては、最後まで学校の部活動に取り組むことができない状況です。

そうすると、小学校5年生、仮に、小学校5年生が中学校に入学する令和9年4月、この段階で、この現小学校5年生たちは、中学校入学を迎えるのですが、その段階で部活動に入部するのか、あるいは地域クラブに参加するのか、そういった大きな選択をすることも、1つの岐路、子どもたちにとって、あるいは保護者にとっての、いろんなことを考えられるポイントの時期になるのではないかとということを考えますと、令和10年10月の地域展開全面スタートだけが目標なのではなくて、令和9年4月、この5年生の児童たちが中学校へ入学する、この令和9年4月という時期も、環境整備のための大切なポイントの時期になるのではないかと私たちも捉えているところです。こちらについても、この後のパネルディスカッションで、大きな論点になるのではないかと考えているところです。

このスケジュールのお話をもって、第1部の説明は終了とさせていただきますが、引き続き、第2部のパネルディスカッションにも、ご参加をお願いします。

また、国や市の方針等をご説明したところでございますが、本日参加していただいております森田先生のほうから、また、何か、今のお話の中で、追加修正すべきポイントがございましたら、いろいろご教示頂けましたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(仁尾副課長)

それでは、ここで第一部を終了したいと思います。第2部は、15分後、14時25分より予定をしております。その間、次のパネルディスカッションの準備を行いたいと思います。また、休憩の時間ともしたいと思いますので、トイレ等に行きたい方は、この時間に行っていただきたく思います。パネルディスカッションについては約90分間予定しておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、休憩とさせていただきます。

(休憩)

(仁尾副課長)

先ほど、14時25分とお話させていただいたんですが、皆さんお戻りでしたら、少し早いようですが、パネルディスカッションを開始できればと思いますがいかがでしょうか。

それでは、少し早いですが、これより第2部パネルディスカッションを開始したいと思います。縄手コーディネーター、よろしくお願いいたします。

(縄手コーディネーター)

それでは、皆さんこんにちは。先ほど紹介を受けました宍粟市の部活動地域展開のコーディネーターということで、この4月から務めております縄手と言います。よろしくお願いいたします。

それでは最初に、本日のパネリストの自己紹介から進めてまいりたいと思いますので、森田先生から順次お願いします。

(森田教授)

兵庫教育大学から参りました森田と申します。今年度から、宍粟市の推進委員会の委員として、関わらせてもらっています。個人的にも、宍粟市は、かつてですね、もう30年ぐらい前が最初の出会いなんですけど、中学校に、私、男女のソフトボールの顧問をしているので、後輩とか教えた子たちが顧問をしているところで中学生に練習相手をしていただいて、めちゃくちゃにやられて、大学生より中学生の方が強いなあ、と感じたり、最近はですね、またソフトボール協会の方々にもお世話になったりと、本当にいろいろとお世話なっておりますので、今回できることを一生懸命やろうと思います。よろしくお願ひします。

(高井会長)

失礼します。山崎東中学校の校長しております高井と申します。宍粟市中学校体育連盟の会長ということで、昨年からは、それから西播のほうでは副会長、県では幹事ということで、ただ保健体育の教員をしております、そのままそれぞれの学校で中体連の理事をしてきてという流れで、このような立場におります。小学校の方に管理職として5年間いる間に、国のガイドライン、部活のガイドラインとかが出てきて、中学校現場を離れて帰ってきたらすごく環境が変わっていたというような状況で、ちょっとずれてるところもあつたりするかなと思いますし、また小学校の視点からも、ちょっと部活動の方を見られるかなあと思つたりしております。余り上手なほうではないので、聞き取りにくいところもあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願ひします。

(久保教諭)

失礼します。山崎西中学校の久保と申します。部活動としましては、初任が相生だったので、女子バスケット部、男子バスケットの主顧問、宍粟市に戻ってきてからは、一宮南中学校で女子卓球部、男子卓球の主顧問をしておりました。5年前に山崎西中学校に異動してまいりまして、若い教員が多かったので、こちらに来てからは、女子卓球部とかサッカー部の副顧問をしておりました。本校は部活動の数が多いです。それで、ちょっと教員の数が少なくなつておまして、クラスが減になったりして、それで現在は副顧問の先生は2つか3つずつ副顧問をしております。主顧問の先生も、2つ持つておられる方もいらっしゃるんですが、今年度はその影響で、女子卓球部と、サッカー部のダブル副顧問をしております。こんな感じで、私自身は中・高、小学校の子どもがおりまして、それぞれ部活動に入っております。1番下の子どもは、そこにおられますけども、眞友館の蔦沢剣道場というところでお世話になっております。今後の地域展開がちょっと楽しみになっております。以上です。今日はよろしくお願ひします。

(中居委員)

失礼します。部活動地域展開推進委員会に山崎東中校区PTA代表として参加しております、中居と申します。中学3年生と小学6年生と4年生の子どもがいますので、部活動をやり切った姿も見てきましたし、ちょうどこれからの地域展開に変わっていく期間の子どもたちのことも心配しております。こういう場に立つことは初めてですので、上手にしゃべれないと思うんですけども、子どもたちのことや、それをサポートする保護者の気持ちを伝えられるように頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

(中尾次長)

失礼します。宍粟市役所でスポーツ振興の行政のほうで担当しております、市民生活部、まち

づくり推進課の中尾と申します。本市では令和5年3月に、本日お越し頂いた森田先生にも大変お世話になりながら、宍粟市スポーツ推進計画を策定し、子どもから高齢者まで、それぞれのライフステージに応じた生涯スポーツの推進ということで取組を行っているところです。

今回、部活動の地域展開におきましても、今回策定されました、市の方針に沿いながら、地域でスポーツ活動を一生懸命やっておられる指導者の皆さんと一緒に、地域の皆さんと一緒に、中学生のスポーツ活動を支える、そういう、持続可能な仕組みづくりをつくっていったらなというふうに考えておりますので、本日はよろしく願いいたします。

(清水課長)

失礼します。教育委員会社会教育文化財課課長の清水と申します。

よろしく願いいたします。社会教育文化財課では、芸術文化全般に関する事業をやっております。主には宍粟市美術展とか、あとは文化協会とか、文化芸術団体の指導とか助言、あとは支援などを行っている部署になります。今回、部活動の地域展開の推進委員会の中では、文化芸術交流部会ということで、その部会に所属しております。その部会には、芸術文化団体の方、それからPTAの方、それと教員の方、それと行政から私が入りまして、芸術文化、主に文化部の部活動地域展開ということで、令和10年10月に向けて、何とか取り組んでいこうと今考えておるところでございます。

個人的には、私も小学生の子どももおりますし、今までも部活動にずっと携わってきて自分も部活をやってきておりました。地域としましては、波賀ですのでカヌーということで、今日もカヌーの紹介があるかと思えますけど、今でも少しですが、そういうような、地域のスポーツにも携わっているような状況でございます。文化部活動というところが1番大きなところでございませうけれども、皆さんの御協力をよろしく願いいたします。

(縄手コーディネーター)

ありがとうございました。実は、本日の6名のパネリストの方々と私も打合せもしてきたんですけど、打合せの段階では大変緊張するということで、そういうことも出てたんですけど、先ほどそれぞれ自己紹介されて、もうそれ以上しゃべらんといほしいなど、討議の中でしゃべってほしいような内容も出てましたけども、以上6名のパネリストと私も含めて7名で、今から進めてまいります。ちょっと私も緊張もしていますので、拍手をお願いしたいと思います。

よろしく願いいたします。(拍手)

それでは最初、私の方で提案をしていきますけど、もともと、本日の案内状のテーマは、未来へつなぐ地域クラブ活動、サブテーマは地域展開から、活力と魅力あるまちづくりと、こういった案内状が届いたと思うんですが、私は、このパネルディスカッションを考えるに当たって、これちょっとぴんとこないなど、ということがありまして、今画面に出てますけど、「どうなる宍粟の地域展開」と、こういうふうなテーマに切り替えました。なぜかといいますと、皆さん、それぞれにKOBEKATSUであるとか姫カツであるとか、隣の赤穂市はもう地域展開が進んでいるみたいやでとか、いろんな情報が新聞であったり、人づてであったりニュースで流れて、一体宍粟はどうなのと、宍粟は地域展開をする気があるのかなあと、どうなってるんだろうみたいのところ、今の現状ですけど、そんな感覚じゃないかなということで、改めて言いますが、「どうなる宍粟の地域展開」ということをテーマとして、今日のディスカッションを進めてまいりたいと考えております。

それで、このテーマは「どうなる宍粟の地域展開」なんですけど、討議を進めるに当たって三つの柱を考えているんです。

一つ目は、宍粟市の部活動地域展開についての疑問を出そう。いろいろと思っておられることがあると思いますので、宍粟市の地域展開の疑問を出そうということです。そして次に、二つ目としまして、宍粟の地域展開の実情ですね、実証事業も含めた現状について、説明を受けて考えてみよう。そして、最後に三つ目ですが、今後の取組、特に令和8年度の取組について、どんな方向性があるのかなというようなことを知ってもらおう、という三つの柱に基づいて今日のパネルディスカッションを進めていきます。

ただ、先ほどから紹介されてますが、兵教大大学院教授の森田先生には、いろんな場面で意見をお伺いしますし、最後の段階では、総括も含めまして宍粟の今後の方向性について、ご示唆頂けたらなあ、というようなことも思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

それでは、早速ですが一つ目の柱、宍粟市の部活と地域展開について、疑問を出そうということについてですが、PTAといいますか保護者の立場で、中居さんのほうから口火を切っていただけたらなあと思います。よろしく願いします。

(中居委員)

先日配布された広報しそうのリーフレットを見て、ちょっと思ったことをお話しさせていただきます。こちらの方が配布されるまでは、あまりはっきりした情報が保護者のほうに入ってくるという機会がなくて、周りの保護者同士でどうなるんだろう、自分の子どもたちのときの部活動はどうなるのだろう、などと話をしていました。まずは、地域展開に向けてのスケジュールが見られたというのが、よかったなと思っています。

この中で、1番気になったのは、現在、小学校6年生、5年生、4年生の過渡期に当てはまる子どもたちについてです。6年生の子たちは3年間部活動ができますが、もしそれより下の学年が最初から部活動ではなく、地域クラブを選択するなどして、それによって部員数が少なくなれば活動がしにくくなるかもしれません。5年生においても部活動を選択し、中2の10月まで、先輩のもとで頑張ってきて、さあ自分たちの代となったときに、地域クラブに移動することとなります。このような状況でも、問題なく活動できるようにするにはどうサポートしていけば良いのだろうと心配します。

次に、アンケートの結果が載っていたんですけども、保護者の会話でも出てくるのが、活動場所とそこへの移動方法についてです。保護者による送迎が必要となると、それができるのかという不安の声をよく聞きます。その下にやってみたい競技や種目のアンケートが載っていますが、これについても、どれだけのクラブが立ち上がってくれるのかという心配も聞きます。ここにたくさんしたいクラブ挙がってるんですけども、これはちょっと我が家の話なんですけれども、子どもたちとどういう部活がしたいっていうふうに、今まで話したりとか、これからのこととか話してみたときにあがったのは、ダンス、テニス。ちょっとこれはちょっと無理だろうなと思ってはいるんですけども。うちの子を知ってくださってる先生方とかは、ああ思っていただけかと思うんですけども、馬が大変好きなので、乗馬クラブなんかあったらいいな、なんかちょっと夢のようなことを話しています。子どもたちが自分でしたいことを選べる状況ができたらなあという期待もしています。

次にですけども、その下の部活動、生徒数の表があると思うんですけども、こちらで気になったところが、剣道部や吹奏楽部の実証事業、とあるところについてです。私の子どもは中3

の子が吹奏楽部に所属してしまっていて、先日の文化祭で引退したんですけれども、地域展開に向けての活動、吹奏楽部が合同練習とかしているのは分かってたんですけども、そういうのが地域展開に向けての活動だということを知りませんでした。このようなことをしているのよっていうのを、もっと伝わるようにしていただけたらみんなが考えるきっかけになるのではないかなと思いました。

こちらにはないんですけども、ほかには、部活動がなくなったら放課後、どのように過ごしていくんだろう、活動費はどのようになるんだろう、大会や発表の場はあるのだろうかなどの心配や疑問を聞いています。子どもたちが充実した活動ができるようサポートしていきたいので、保護者にも情報提供や説明会などをしていただきたいと思います。

(縄手コーディネーター)

ありがとうございました。今の中で、保護者として大変心配な面もたくさんあるということで、それこそ推進委員会の中でも似たような考え方というか、先ほどの方針の行政説明の中で、課題として取り扱われたものもあるだろうと思うんです。例えば、クラブの数はどれぐらいですかって、今お尋ねもあったんですけど、例えば乗馬クラブについてはもしかしたら可能であればつくればいいけども、生徒数のグラフで出てるように、やっぱりキャパがあるので、キャパと、それから宍粟市で立ち上げ可能なクラブ数との関係もあるかなと思うんです。ですから、その辺は今後、よく検討していかなければならないなというようなことを思っています。

それから、これは大きな方針でありますけど、現在、学校部活動で取り扱っている部活動の種目については、基本的にはそれは地域展開でも確保する、こういう方向性はある程度見えてると思うんです。それプラスアルファは、先ほどありましたアンケート結果に基づいて、今現在、学校部活動にはないけれども、こういうクラブ、こういう地域クラブを立ち上げようかっていう可能性は十分にあると、こういうことかなと思っています。

それから、1番ちょっと耳の痛い指摘だったんですけど、もっともっと情報を出してほしいと、先ほど画面にも出ましたけど、広報誌ですけど、これも推進委員会でお諮りをしまして、何度か修正を重ねて、こういう形で出させていただいたんです。ただ今後ですね、もちろん広報しそは活用しますけど、ある意味、ポスターをつくって、各公共施設や学校、いろんな場所に、宍粟市は地域展開、令和10年10月実施しますよみたいな感じでどんどんこう情報を流していく。そこにはQRコードがついておって、QRコードを読み取ったら、さらに詳細な情報が見えると。それから、市のしそチャンネルもありますので、しそチャンネルなどの協力を得ながら、情報をしそ放送で流すというか、そういうことも考えていけたらなということをおもっています。

続いて教員の立場からということで、久保先生、お願いできますか。

(久保教諭)

私が今日ここに来るに当たってどこまでしゃべったらええかなあっていうところだったんですけど、職員室からは全部しゃべってきてくれて言われたんですけど、喋ったら駄目なこともあると思うので、そのときは止めてください。

私たちが部活動顧問をする上で、1番困るのは自分がやったことがないスポーツをせなあかるときなんです。卓球を持つとなったときに、コーチを一生懸命探したんですけども、僻地でなかなか来ていただけなかったり、お金いくらもらえるんですかとか、あとは僕も仕事してるんで

ね、と言われたりとかして、ものすごい困って、加古川の卓球教室に1回6000円払って、技術のコーチングだけなんですけど、それに1年通って、顧問をしたりとか、そういう技術面の心配が常に我々にはあるんですね。私、それで今、若手の子たちが困ってるのを見て、特に男の子なんか、ちょっとかっこつきたいじゃないですか、分かりませんってなかなか言えないじゃないですか。僕、できへんからとか、そうなったときにやっぱりコーチを探すんですが、コーチの方がやっぱり、お金が出ないんでしょうとか、やっぱりそういう生活のこともありますし、そんなに頻繁に来れないんだよねっていうことも言われますし、指導者を探すっていうところがやっぱりこの宍粟市においては難しいなっていうのが実情なんじゃないかなと。そこが、やっぱり私たち教員からは、地域展開してもなかなか受入れ先がないんじゃないかっていうのが、一つ心配です。それは、やっぱりひとえに生徒の技術がやっぱりつかないと、生徒もつらいし、きつうまくなりたいって絶対にみんな思ってるし、やっとならには勝たしたいともやっぱり思うし、そういうことで、コーチングの問題は常にあるなっていうのが、展開しなくてもしても、ある問題かなと思います。

地域展開するとき、1回ちょっとちらっと出た話で、参加したい先生は参加してもいいよみたいな。そしたら、やっぱり家庭の事情で、私なんかは、今日ここへ来るっていうのもやっぱり、御飯のこととか、家のこととか、子育てと介護がダブルできてる問題だったりとかして、なかなか土曜日動けないっていうことがあるので、そうなったときに私はやりません、若手の子もそうやと思うんですね。最近は核家族化が進んでるんで、子どもを預けられない先生が増えてきてるんで、そしたらやっぱり、僕はやる気もあるし、愛情もあるけど持たれへんのやという先生もいるわけです。その時に、あの先生はやる気ないからって、言われたりせんかなって。それはみんな職員室で、ぼそぼそつぶやく不安です。教職員から希望して、やりたいですって言ってやれる人はやったらいいとは思いますが、やれないときにそういう、何といたしますか、保護者さんとか、生徒さんから、ちょっと、あの先生やる気ないってならないかなっていうところが、今の心配です。

あと、先週、来週の県大会の準備に来れるか来れないかの参加の可否みたいな、職員に聞いたんですけども。赤穂が部活動をやめます。そうなったときに、今まで赤穂の先生にお願いしてた部分がすごく多かったので、地域展開されてから、大会運営のところ、卓球なんかものすごいいっぱい、準備があるんで、今回、赤穂でするんですね県大会。そしたら、赤穂の先生には、めっちゃお世話になったんですけど、今回どうなるのかなあっていうところで、大会運営を地域展開した後に教職員が携わるのか、携わらないのかっていうところで、携わらなくなった時に、大会運営はどうなるのかっていう、そういう心配の話も、ちらほらと出ています。今回は赤穂の先生が来てくださるらしいので、ちょっと助かったなあと思っております。こんな感じです。

(縄手コーディネーター)

どうもありがとうございました。教員の立場からということで先生たちの生の声というか、本当の悩み事というかそういうのが出たかなと思います。

それで一つは指導者のコーチングの件ですけど、指導者の件ですけど、二つ目の柱のところで、実証事業の中で、幾分か、僕の感覚ですけど、先生方の中には自分の専門性がないので、なかなかその指導が難しいという、でも部活の指導をしなければならないということがありますけど、地域の方の中にはすばらしいその専門性を持っておられる方がたくさんおられると思うんです。やっぱり、それを今後見ていくというか、掘り起こすということが必要かなと思いますので、

その点、今後に期待していただけたらというようなことは一つ思います。

それから、顧問として、任された以上は頑張りたいわけやけど、顧問というか、先生といえども、家庭があり、子育てもあり、それを両立するという面では、大変厳しい状況が、それこそ僕たちの世代というか、もう僕はもう68ですけど、部活動するのが当たり前っていう感覚で大きくなってきましたし、子どもの世話をおじいちゃん・おばあちゃんに預けていて、我が子を放ったらかしというやってきたみたいなのがあるんですけど、それが時代の流れというか、背景的にはそういう時代だったり、今はそういう時代でもなくなってきたという事も確かにあると思うんで。

それから、最後に出ておりました中体連の関係は、今から高井会長に振りますので、高井会長の方から中体連大会等のことも含めて、発言していただけたらなと思いますが、よろしいですか。

(高井会長)

そういうお話をさせていただく前になるんですけども、まず部活動の学校教育での位置づけっていうことで、ここには校長先生や園長先生、学校関係者の方がたくさんいらっしゃるんで、よくご存知なんですけども、こちらの方は学校教育を進めていくような指針になるような学習指導要領の中では、学校の教育課程外であると。だから、24年に部活動に伴う学習指導要領の見直しっていうのがあって、そのときに学校の判断によって、部活はしなくてもいいですよ、というようなことも明記されておりますし、それから以前から全員が入部しなくてもいいですよというようなこともあります。しかしながら、教育課程と連動させながら、教育課程外の部活動をそれぞれの学校で展開していくようにというようにことが指導要領の中にも明記をされているという中で、どうしても校務分掌の中で、誰々先生にはこの部を持ってもらわないといけないとか、いうようなことで1年間の方針を決めたりっていうことは、現在でもやっております。

今の久保先生の話の中にあっただような、それぞれの先生方の実情を聞く中で、そこに校務分掌をはめていくっていう作業も本当にしんどくなっているところがあります。これは、学校経営の面から言えることなんですけども、本当に先生方の考え方というの、含ませながら、その家庭を大事にする共働きもありだし、それから家庭での役割分担も、きっちりやっていたりというところで、価値観の多様化に伴って、家庭を第一に優先して、部活動の方は、っていうような考え方を貫き通される若い先生方に対しての無理強いとか、お願いができないというところで、学校の部活を今後も運営していくっていうのは、しんどいなあっていうところはあります。

それから一番大きなのはやっぱり少子化っていうことで、それこそ20年ぐらい前には、生徒数は千種43なんですけども、十五～六年前に、私が千種中にいた頃は、今の山崎南中学校と同じぐらいの部活動の数がありました。で、どんどん生徒数が少なくなっていく中で、どの部を廃部にするかっていうようなことを職員と協議したりだとか、保護者の方の意見聞きながらっていう形でどんどんこう減らしていったというところで、現在3つの部ですよ。千種は、このような中で、本当に何とかその学校の中で運営していこうみたいところでやってきましたが、どうもなかなかそれが難しいというところで、合同チームという考え方が中体連の方でも認められるようになってきて、宍粟市内でも、10年ほど前からソフトボール部で合同チームが結成されるようになりまして、現在では、個人競技のない団体については全ての運動部で合同チームをつくっていると。今年は、ちょっと女子バレー部のほうは全部そろったんでないんですけども、全ての部で合同チームがあるというような状況になっております。

先ほどから出ているような数字を見ると、そういう合同チームをつくっていくことすら、運営していくことすら厳しい現状があるというような形で実粟のほうの部活が進んでるのかなっていうところになってくるんじゃないかなっていうふうに思います。

それから、今後も地域展開で、地域クラブのほうで中学生の生徒を見てもらって、健全育成に努めていただく、文化部、それから運動部の出場を認めておられるっていう形で進んだとして、いろいろ大会とかということで、メインとなる大会をしていくときに、全ての部、それ今やったら中体連の大会ということでやってると思うんですけども、まだばらばらで、それぞれの競技で行うというようなことが起こってくるかもしれません。

そうなったときに、今、土日にやっている文化祭であるとか、体育祭であるとか、そういうものが土日にできなくなると、この土日に文化祭やると、このクラブに入ってる子は来られなくなるとかっていうような課題が出てきて、その辺りについても、平日に学校行事を行っていくようにも、なっていくんじゃないかなっていうふうに思います。

それから、先ほど赤穂の中体連のほうでというような話もあったんですけども、実際今の全国の全中って言われてる分なんですけども、令和11年度までは、開催地区分が決定しています。令和13年度までは全国大会をやろうという方向で、おられるそうです。そうですっていう言い方が本当に県の中体連の会合、それから近畿とか全国でも、やっぱり喧々諤々もうはっきりしないんです。

そういう中で、一つ大会をすとなったら本当に1年間で準備ができないということで、ある一定のところまでは決めていこうねっていうことで、今言うたようなことでやっておりますし、兵庫県で言いますと、近畿で、全国を持つのが令和9年で、兵庫県もそのときに近畿を持つということなんで、最低、この年までは、県の中学校体育連盟は存続して大会も実施するという事なのではないかなというふうに思います。

本当に学校の部活動がなくなる中で、中体連の組織っていうものは、学校にあるものかどうかっていうのも疑問が浮かぶんですけども、何とか、大会運営については、協力していきますよっていうふうに、今考えたりとかされている中体連が多いっていうのは事実であって、目の前の子どものことでもありますので、その辺りについては、協力していきたいというふうに中体連の方では考えております。

ただ、生徒引率となりますと、これは学校の業務になるんで、給与も出るんですけども、これが土日になりますと、もうボランティアということで無給になります。ボランティアで、そういう大会を支えていくというようなことになろうかと思っておりますし、その辺りをこちらが強制できるものかどうかって言われると、難しいなというようなところではございます。

(縄手コーディネーター)

ありがとうございます。今、3人の方に発言していただいたんですけど、それぞれの立場から様々な課題が出てきているのが、本当の姿かなと。地域展開という言葉だけが先走ってますが、課題がたくさん山積していることも事実です。

ただ、方針をつくって、令和10年10月をめざしてという方向性は変わりませんので、それで、最初に発言していただいた中居さんのほうから、例えば過渡期の問題っていうことも出てまして、過渡期の扱いをどうするかということと、あと時間の使い方、余り触れられてませんけど、地域展開された場合に、これまでは学校部活動の中で、部活動に所属してる生徒はそれを追いかけていくというか、スケジュールを立てやすかったわけ。今度は、地域クラブに入っていく

ますと、それぞれの地域クラブの中で、それぞれが違う活動日になったりいろいろするわけなんです、それぞれの生徒は、今後の子どもたちは時間をどのように使うかっていうような能力もつけていかなあかん。

逆に言うとそういう力がついていくと、いうことも言えるかと思います。当然、自分の中で調整していかなければいけませんので、というようなこともあろうかと思います。

たくさんの課題が出た中で1番難しいところを、森田先生にお願いしたいんですけど、地域展開の必要性というかね、課題も含めてなんですけど、それを乗り越えていかなければならないと思うので、先生のお考え聞かせ頂けたらなと思います。

(森田教授)

まず、先ほどの行政説明のほうにありましたので、もうほとんどこの必要性というか、必然性というのは、何となくお分かりではないかなあと思うんですが、これまで国は、最初、学校の外に出そうという試みは1970年代にしましたが、それを試みた自治体のところで、地域で勝利至上主義だとかそんなふうな問題も出て、それで、ちょっとこれはいけないなあということで頓挫をしてしまいました。

続いて、1990年代から2000年ぐらいなんですけど、20数年後に、これも御存じだと思いますが、総合型地域スポーツクラブとあって、兵庫県ではスポーツクラブ21が代表的な存在になりますが、言えば、学校からですね、移していく際に、総合型のクラブを中学校の部活動の受皿みたいな思惑もあったんですが、これも正直なところ、しっかりとそれが根づいている全国の地域もありますけど、全国的には広がっていきませんでした。その中で、でも、やはり先ほどの説明にあったように、どうしても社会自体がもう変わっていかねばならないということはもう明らかで、それを加速させたのは、正直なところ、社会の働き方の問題、ワークライフバランス含めてですね、問題になってきたというふうに考えています。

それでは、私はもう現場の先生方が、もう本当に3年間を削って、お金を削ってですね、やってこられて、そしてその成果があったことも事実なんですけど、もう本当に制度的に曖昧な形に乗っかって、もう数十年、半世紀以上やってきたところを、どっかで決断をしないといけない、先延ばしができない状況になって、部活動研究をしてる人間からしたら、やっとな決断したなっていうのがぶっちゃけたところですよ。

そういう意味では、今回はやらざるを得ないものなんですけど、でも一方では、当然、これを機会にですね、今まで学校部活動っていいこともたくさんなんですけど、影の部分もいっぱい指摘されてきたんですよ。例えば、先生方にとっても子どもにとってもね、大好きな子は部活漬けでもいいんですけど、もうどんどん、部活漬けで1週間もずっと部活を朝から晩までね、やっていくっていうふうなこと自体が問題視されてきたこともあるしね。正直なかな、こういうね、人数が少ないところではね、先生方も、もうこれは苦渋の決断なんですけど、一生懸命やったら何でも一緒やねんと言うしかないんでね。そして、子どもたちをある意味説得しながら、一緒にやってたんですけど、やっぱり、実際に自分の趣味事をね、それぞれのペースでね、やっぱり一生懸命やったら教育としては一緒なんですけど、やっぱり趣味事の問題は、やっぱり個人に可能な限り提供してやる必要があるっていうようなところは、もう今回まず頭に押さえていただけたらなと思います。

その上で3つ、ちょっと前提的な理解をお願いしたいんですけど、1つは、もう今後進めていくに当たっては、今のような部活動のイメージですね、例えば週にマックスで5ですが、そして先

生方とか指導者がずっと付いてやっていくみたいな、このイメージを一旦リセットしたほうがいいのかなあと。

どうしてもこれにとらわれると、新しい改革も、そら無理やとかね、トーンダウンをしていくので、もう極論すればですね、週に2回になる活動もあるかもしれないし、地域の事情ですね、あるいはもう夜間の活動、平日はね、なしとなる場合もあるね。あるいは指導者さんですね、見つからない場合はでも、今度はある先進地区でもあるんですけど、もう保護者さんとか地域の方が見守るだけで一応、大人がおった方がいいので、自分たちでチームのようなね、活動をして、最低限必要な大人としての関わりっていうのはしているところもあります。もう、ぶっちゃけ、全ての種目、学校と同じようにですね、対応できることは稀ですしね。これも、地域によって違っているなというので、まず、そこをですね、その一つとして、中学生だけじゃなくて、大人の中とか小学生と一緒にやるパターンもあるというふうなことをちょっと頭に入れていただきたいなと思います。

2つ目は、そことも絡むんですが、新しくこうね先ほども出たんですけど、これまでの部活のいいところは継承しましょうっていうところで、部活動のよかったことって何っていうのは、1回、これは先生方にもお聞きしながらですね、大人が考えるべきことかなあとと思います。と同時にもう1つ国は新しい価値の創出という言い方をしているんですが、言えば、今まで、部活動としてやってきた、一生懸命その一つのことによって言うだけじゃなくて、また、文化活動をしたりね、そしてスポーツもしたりっていう関わりも十分認めていく。その多様性に対する寛容さとか、それを受け入れる土壌が絶対に必要で、でも、もう皆さんここに集まってる方みんな昭和型の人ですね。昭和で生きてきた人が多いので、昭和の価値観ではね、もう身にしみついて私もしゃべりながらあるんですよ。実際にそこも1回、生活の中で、子どもたちは今ね、中学生からでもそうなんですがねSNSでね、T i k T o kでダンスを配信したり、そんなことも含めて、部活もしながらほかのこともいっぱいやっているんですね。そこをやっぱり当然リスクもね、やっぱり大人として管理していかないいけないけどね、生活の中の一つの彩りとしての文化スポーツ活動という考え方をやっぱりどこまでしていけるかなあとというふうに考えています。

最後にね、国は今年度までが、一応改革推進期間というふうな形で、一応終わって、当面、現場の混乱も最小限にするために休日からというふうにしていますが、今度の3年・3年の6年後には、やはり、大方、何とかですね、完全移行という形をできたらなあと。そういう意味では、宍粟市さんは、10年でもうすばつとね、そこに向けて努力しようというふうなところは、私は一つの英断ではないかなあとと思います。

兵庫県も、御存知のとおり、やはり神戸が決断したことによって阪神間は、これはいいかどうかですけど、横並びで、もうみんな決断を神戸がしたので、阪神間はほぼしました。あとね、今度、姫路は今、休日のみなんですけど、もう加古川も高砂も北播磨も結構進み始めましたしね。朝来市も、そういう意味では、今後、先ほどP T Aの中居さんが言われた、やはり決断するからこそいような課題が出てくると思います。決断しないと、次の作業がスタートできないので、まずね、そういう意味では、今後過渡期のところを、やっぱり申し訳ないんですが、多分子どもたちにはね、最小限の混乱に抑えながら、前に向けてどうするかっていうところを、大人が知恵を絞ってですね、考え工夫する必要があるかなというふうに思っています。以上です。

(縄手コーディネーター)

森田先生ありがとうございました。

ここで一つ目の柱については、これで終わりたいと思います。

ただ、私が進める立場で言いますと、今までここまでで、約45分かかってしまいましたので、三つの柱と言っていますが、もしかしたら三つ目の柱は、時間不足のため、持ち越しというようなこともあるかと思いますが、次の二つ目の柱にいきたいと思いますが、よろしいですか。

**それでは二つ目**の柱、宍粟市における実証事業を含めた地域展開の現状について、まず最初にスポーツ系ということで、事務局のほうから全体的な取組状況について報告をお願いしたいんですよろしいですか。

(仁尾副課長)

事務局を務めております学校教育課：仁尾です。

中学校にも元々勤めておりました、当時はバレーボールだったり、バスケットボールだったり、部活動にも携わっておりました。久保先生のお話などを聞きながら確かにそうだったなと感じている次第です。このタイミングで部活動地域展開に携われていることをたいへん嬉しく思います。

それでは、画面に表示しておりますが、これまでの経過ということでお伝えしたいと思います。先ほどの行政説明のほうにもあったかと思いますが、令和6年度は宍粟市中学校の運動文化部活動の在り方に関する協議会を開催しております。また、環境整備等について協議しております。実証事業につきましては、カヌーと吹奏楽において、令和6年度は実施しております。令和7年度に移りまして、今年度は宍粟市部活動地域展開推進委員会ということで、先ほどもありましたが、ここまでで3回開催しております。こちらも体制整備であったり、いろいろな内容について協議しております。今後も続けてまいります。また、実証事業につきましては、令和6年度に続いて、カヌーと吹奏楽、さらに、剣道のほうでお世話になり、実証事業も実施しております。また、10月の下旬には、中学生座談会を開催しております。その中学生座談会であったり、また、先ほどの地域展開推進委員会において頂いた課題についてですが、こちら、先ほど行政説明で提示させていただいた資料と同じですが、小さい括弧囲みのところは、アンケートから頂いた課題であったり、座談会から頂いた課題、推進委員会から頂いた課題というような意味合いでつけております。大きく6つの課題を、認識しております。1つ目が地域クラブ指導者また活動団体の確保、2つ目が保護者、地域への周知、理解の促進、先ほど、こちらについては中居さんのほうからもお話を頂いたことと重なっております。3つ目が、中体連や文化芸術大会の参加要件や大会運営者の確保、4点目が兼職兼業や認定要件等の作成、5点目が公費負担の在り方、受益者負担水準の検討、6点目が中山間地での送迎や学校間距離の問題、これらを、課題として大きく受け止めております。

また、10月28日に実施しました中学生座談会では、こちら、大きくテーマを二つに分けて、一つ目のテーマを「部活動で学んだこと、成長したこと」として、合計14名の中学生が、各学校代表で出席してございまして、意見交流をしております。森田教授から部活動が継承すべきこと、というようなお話もあったんですけども、部活動から学んだことということで、中学生からは「小学生とは違う環境で、会話の仕方などが変化した」「チームを引っ張る大変さ、難しさを認識した」「チームプレーの中でのコミュニケーションの大切さ」また、右上にあります、「笑顔でコミュニケーションすることの大切さ」、こういったことも、自分たちの成長につながったと言っております。さらに「みんなでやり遂げることのうれしさ、悔しさ、最後までやり続けること、そしてそれをできたときの喜びを感じることができた」と、体調管理

の大切さ」や「自分で考えたり、行動することを、先生から教えてもらった」と「最後までやり続けることの大切さを改めて認識する場面であった」と中学生たちも意見を言ってくれました。

また、「新たな地域展開に期待すること」ということで、中学生たちに投げかけたんですが、その中でやっぱり不安もあったり、希望もあったりということで、多くの意見を言ってくれております。「期待すること」としては、「学校でやっていないスポーツがあるといい。部費を安くしてほしい。長い時間じっくり活動したいが、活動場所が学校から遠い場合もある。早く自宅へ帰れるようにしてほしい」というような願いも込められております。さらに、「経験のある指導者さんや、最高の環境で活動したい。たくさんの選択肢で自分の個性を伸ばしたい」という意見もありました。ただ、不安については、「道具や場所の管理、送迎バス、つくりたいクラブがあるのに指導者がおられないときはどうするんですか」や、「価格の設定、参加費、部費のこと」などが意見として聞かれました。「送迎が保護者の負担になるかもしれないので、バス等の送迎サポートがあるといい」と、「生徒への関わり方、先生との関わりに対し、地域指導者の方の関わり方がどうなのか」ようなことが、希望としては、「近くでの活動がいい。目標としての大会やコンクールを開催してほしい。個人の頑張りを全校生の中で紹介したり、賞を取ったときに表彰していただけるようなことがあると良い」ということだったり、「今の部活のような感動や達成感を味わいたい」という意見を聞いております。

(縄手コーディネーター)

どうもありがとうございました。続いて推進委員会で、スポーツ系、それから文化芸術系という立場でそれぞれ関わっていただいておりますので、まず、スポーツ系のほうで、中尾次長のほうから、お願いします。

(中尾次長)

失礼します。これまで、先ほど報告にありましたように、3回の推進委員会を開く中で、1回目は組織づくりでしたので、これまで2回、実質2回の地域スポーツ活動部会という部会で相談をしております。

まず基本的な姿勢として、今回の地域展開にあたり、今中学校で行われている部活動を継承するってところで、そのことによってスムーズな移行を図る。そして、それに加えて、新たなクラブ活動を創出することにより、生徒たちのスポーツに関する興味ややる気を促す地域展開としていきたいということ、こういうことを基本姿勢として、みんなで共有しながら検討を行っておりまして、これまで検討を行ってきた検討事項の具体的な事項としましては、少子化により子どもの集団確保が難しくなるってことは分かっておりますので、その中で持続可能な仕組みづくりをしていくということが必要だろうと。

指導者の確保を図るために、スポーツのそれぞれの種類によって資格が異なっておりますので、そういったことを念頭に置きながら、市として、養成講座を開催していく必要があるだろうということです。こういうことで持続可能なところへつながっていくかなと考えてます。

3点目に、国がガイドラインというものを出してるんですが、そこに掲げられている運営体制を構築をしていくってことが必要だということ、具体的にはいろいろ出てるんですけども、今日は2点。1番には生徒の安全確保ってところで、生徒の健康管理、事故防止、それから体罰防止、ハラスメントの根絶ってようなことが、国のガイドラインのほうに書かれております。2点目としては、週2日以上以上の休養日を設定するというので、平日は2時間、休

日は3時間の活動時間ということが上がっておりますので、これを守る、地域クラブ活動の創出ということが必要なあとということで話し合いをしております、その中で、これまでの協議の中で出てきている主な意見としまして、スポーツ団体の関係の方からは、従来の学校部活動の教育的意義や役割を継承するという教育委員会のほうからの説明なんですけれども、どこまで継承するのか、それが非常に受皿となる地域クラブ活動団体には負担になるんじゃないかということをお慮をされております。

また、市が部活動を学校から完全に切り離して地域展開を進めるという方針なのであれば、地域展開をこれから引き受けるスポーツ団体としては、市の組織として、例えば部活動地域展開推進室というようなものをつくっていただいて、責任の所在というのを明確にしていかないと、今はその学校で行われているものがどこに責任があつて、地域クラブ活動団体が安心して活動するためには、その責任の所在を明確にしてほしいという意見が出ております。

競技ごとに連携を図るためにはコーディネーターの役割が必要、地域等をつなぐコーディネーターってものを、市の中に設置してほしい。

また、指導員の資格も競技ごとに違うので、市のほうで養成講座を開催して育成していくことが必要というような意見、また保護者からは、部活動ごとに活動場所が違うので、活動場所と送迎方法はどうかという不安な点。

また、指導者への謝礼はどうなるのか、保護者の会費負担ということになると、増えるのが不安だという声、それから、指導者の方針によって、勝ちにこだわる運営なのか、楽しくやろうっていうような運営方針なのか、そのクラブの方針によって、クラブの雰囲気が大きく変わりますので、全体の方向性を考えてほしいというような意見が出ております。

市としましては、現在、剣道等で行われている実証事業をこれから様々な競技に拡大することで、引き続きですけれども、スポーツ団体の皆さんの御意見をお聞きしながら、宍粟市の特性、地域性に合った地域クラブ活動の育成を図ることで、この指針にあります令和10年10月の地域展開に向けて準備を進めていきたいと考えているところです。現在の検討状況は以上のような状況です。

(縄手コーディネーター)

はい、ありがとうございました。続いて文化芸術系の清水課長お願いします。

(清水課長)

文化芸術の推進委員会ですけれども、同じようにこれまで3回実施しております。その3回の中でいろいろ議論していた中で、実証事業を先行して吹奏楽がされてまして、令和6年、7年、ともう既にやってらっしゃって、その辺を参考に、できないかなというところをちょっと議論しました。その中で1番大きなのは、文化部の活動としまして、今現在、既存の部活動で吹奏楽と、ここにはもう文化部と書いてありますけれども、美術部がありますので、その二つを何とか継続して、地域展開できないかということで議論の柱としております。その中で、どんなことができているかというのは、やっていけるかというところではいろんな議論が出る中で活動場所の検討を、例えば学校でするのか、公共施設でするのかというような場所の検討、それから1番大きなのは、何度も出ますけれども、送迎の問題です。そういうものが1番大きいと感じています。例えば市の北部の子どもたちが参加できるのか、とか。宍粟市は広いので、移動手段はどうなるのかということ、1番大きいかなあと思います。移動手段としては、スクールバスとか定期バス

を利用できるのかとか、保護者の送迎の負担が大きいので何とかならないかというようなところもあります。

あと、部活なら、授業が終わった後にも学校で活動できるんですけども、クラブチームだと保護者の送迎が必要になってくるので、ちょっと心配だというところがあります。また、活動場所を遠方だと、送迎に時間を取られて練習時間が少なくなってしまうし、家に帰るのも遅くなるという、この部分が3回の推進委員会に出ていて、1番大きな課題がこの送迎の部分になってきています。

あと、この地域クラブに移行したときに高校生の参加が可能かどうかとか、地域展開に地域に部活動をおろした場合に、PTAがどう関わっていくのかっていうのもちょっと大きな課題になってくるのかというところも議題に上がりました。

あとは費用、部費になってくるかと思えますけど、部費を徴収する場合は、金額がいくらになるか分からない。金額の根拠はしっかりと明記して、明確にする必要があるんじゃないかというような意見があります。

それともう一つは経済的に厳しい家庭の生徒については、会費を含めてどういうふうに支援をしていくのかという、市の支援を含めて、そういう一定の支援が必要ではないかというような議論もありました。

あとは、地域クラブの掛け持ち、例えば運動部でやったり、文化部でやったり、地域展開する場合に、掛け持ちができるというふうな形になっていって話も聞いているので、その場合、掛け持ちした場合に、そういうのをガイドラインでも示さないといけないんじゃないかなというふうな意見も出てます。

あとは今既存の宍粟市の部活動の選択する種目が少な過ぎるというふうな意見もありました。

最後になりますけれども、この部活の地域展開について、各先生方に情報が伝わっていないのではないかと。広報しそうを見て、初めて知った方もいるんじゃないかというふうな意見がありました。

今後、先生方含めて、校長先生とか、個々の先生、その辺とも調整していく必要が必ず出てくるのではないかというふうな意見がありました。

で、あわせてその保護者、1番大きなところですけども、保護者に対しても、細かな説明を部活動の地域展開について、していくべきではないかというふうな意見です。過去3回、今まではそういう議論がありました。

(縄手コーディネーター)

はい、ありがとうございました。

中尾次長のほうからも、スポーツ系の部会のほうでの課題というか、ひとつ押さえておきたいんです。

今画面出てますけど、宍粟市が地域展開を進めるに当たって、こういう体制で今やってるんです。こういう方法じゃなしに、仮の名前を推進室というふうにしたらいいと思うんですけど、森田先生にお尋ねするんですけど、県下では、こういう方法でやってるのでしょうか。宍粟市のようなモデルなのか、それとも、推進室みたいなのをつくっているのでしょうか。また、森田先生としては、こっちの方がいいんじゃないのみたいなところがありましたら、お願いします。

(森田教授)

はい。皆様の市役所とかの一般的な課題というか、よく言われるのが縦割りで、なかなかというふうな言い方を耳に思うんですけど、今回の内容は、もうここにお示しされてるように、関わる課が、現実には、本当に学校教育だけじゃなくて、施設のことをですね、関係の部署とか、あと、文化とスポーツの推進部署とかですね、含めて、たくさんに関わります。その中では、今回、私3回宍粟市のこの委員会にも関わらせてもらって、本当にそこが腹割って、議論できているんだなあというふうには思っています。

その一つは、会議の持ち方が、何となく分かるんですけど、推進会議と言えば、大きいところでは杓子定規で、事務局が提案をして、そしてそれに向けてどうですかと意見聴取をして、それで進んでいくパターンですが、今報告あったような形で、それぞれの行政の方も、全てのPTAの方も教員の方も入ってやっているの、現段階では、すごくいろんな課題が本当にそれぞれの委員から出てるなと思います。

とはいえ、やっぱりどこかでは、これ、少しずつ事業が増えていくと、やはりその相談窓口とかっていうのが出てくるので、やはり一つのところで対応する必要があると思いますし、さらには、当面は行政が何らかの形で、コントロールをしていこうと思うんですが、行く行くはそれを民間というかですね、行政から手を放して信頼ある団体がですね、自立させていくようなところに持っていけないといけないかなあというふうには思います。

(縄手コーディネーター)

ありがとうございます。それでは宍粟市の現状を知っていただくという意味で、実証事業の様子について報告してもらいます。実証事業をされている団体の代表の方がみえられていますので、まず最初にスポーツ系から宍粟剣道連盟中学部、中川様、お願いできますでしょうか。よろしく申し上げます。

(中川理事長)

失礼いたします。宍粟剣道連盟で理事長を仰せつかっております中川と申します。どうぞよろしく申し上げます。先ほどから参加させていただいております、森川先生、中居さんの方から出ましたように、この過渡期というのをどう乗り越えていって、本当に子どもの立場から考えると、この今4・5・6年生の方の狭間に、ここに入っていて、これをどうするんだろうなというふうに思うんですよ。我々、本当に部活で教わったこと、本当に今大人になって思い出しても、よかったなというようなことを、ここたいへんやったなあっていうのが、今非常に糧になってるなあというふうに思うんですよね。ですので、皆さんと一緒に、本当に過渡期を何とか乗り切っていきたい、そういうふうにあります。

それと、久保先生のおっしゃった、専門性の問題ですよね。剣道も非常に専門性の高い競技だと私思っております。その部分でも、こういうふうに、地域展開をさせていただいているということです。

また、高井先生おっしゃったように、中体連の問題になります。これ、いつまで続くのかなあというようなことも踏まえて、剣道連盟では、令和6年の9月に、市役所4階で役員会をさせていただいて、その当時の市役所の担当のほうから、地域展開について、どうなってるんやというお話を聞きました。そういうことを踏まえて、今本当に、受皿を先につくっておこう。剣道を今やってる方が安心して剣道が続けられる場所をつくらうやないかということで、本当に剣道連盟の中が一致してくれました。持続可能なように、その年の11月、令和6年の11月に、持続可能

な活動として、若い指導者に何とか出てくれへんやろうかということで、4名の指導者をお願いをしました。令和7年の1月には、今剣道をしている小学校6年生を中心に説明会を開かせていただきました。そして7年2月、中体連の大会への参加、これがまた結構面倒なんですよね。資格審査等も入ります。市役所の方の援助もあり、無事2月末に、3月でしたか、大丈夫ですよということで、中体連の承認を受けることができました。そして、それと同時に見学会を開かしていただいたんですけども、当初十二、三名の子どもたちが入ってくれるのかなと期待してたんですけども、やはり、友達同士っていうんですか、それから通うのはどうするのか、友達が引き合って、結局5名の新入部員男子ばかりですけど、入ってくれました。

この子たちは、山崎南中学校の5名になります。

その5名も一生懸命練習していただいて、(火)(木)(金)を基本として活動してます。今まで剣道をやった子どもが2名いました、初心者が3名でした。初心者からの活動でしたけれども、何とか大会にもね、出られるようになって、その間活動していたんですけども、そこへ、南中の世良校長先生が、来てくださったりして励ましてくださるんですよね。そういう関係も非常によかったなと思います。また、西澤学年主任の先生も来てくださって、「頑張ろうな。写真撮ったるわ」と、励ましていただいて、それも非常によかったな、この過渡期から実証事業に関わる者としては、やはり学校、それと行政、それと保護者、それから指導者、そこが一体となって、進めていくことが大切だと思うんです。子どもたちは、昨日まで、期末テストが3日間行われてたんですけども、どうやったとか、そういうようなことも、生活面でも少し見てやるということも必要なかなあというふうに思っております。

そして、市大会から県大会も終わりました、11月15日に県大会があったんですけども、見事1回戦を勝ち抜いてくれまして、2回戦まで、いってくれました。このことは非常に我々指導者の力ともなった次第です。やっぱり、専門知識を持った指導者、非常に素晴らしい指導者のもとでやってくれ、頑張ってくれた結果でもあろうかなと、そういうふうに思っております。

もう一つは、剣道連盟全体、この競技を行ってる者たちの理解が必要だな、そういうふうにも思いました。問題点としましては、やはり今受益者のほうのお話ばかり、学校の生徒のお話の方から見てるんですけども、我々とするこの指導者のほうの関係から見ると、指導者謝金とかはどうなっていくんだろう、今は実証事業ですので、土日のほうは市役所のほうから御面倒頂いていただいているんですけども、今後どうなっていくんだろうか。そういうふうに思ってます。

月3000円で運営をしてるんですけども5名ですので、本当に僅かしかありません。今、西播地域では11団体、8団体出ているんですけども、宍粟と龍野の2つが地域クラブで、今回の西播大会には出場しました。これから、地域クラブがだんだん増えていく中でどう変わっていくんだろうなという心配もあります。中体連がいつまで続くのか、これは高井先生がご説明があったとおりです。

それと、中尾次長からもお話がありましたけれども、今、学校側の方は、教育委員会の事務局が持っていらっしゃるから、受け皿は、市民生活部の次長の中尾さんでもてということで、これを何とか、我々活動している者としては、地域展開推進室をようなところで一つで持っていただけないかなと、そういうふうに思っております。何か、リスクが発生したとき、これは団体にだけ責任が持たせられるのか、非常に、これはどうなのかなと、そういうふうにも思っております。それとやっぱり、受け皿をつくっていく上で、ガバナンスコードっていうんですかね、宍粟のために、ひとつ一肌脱いでやろうやないかと、そういうふうな団体になっていきたいなというふうに思っております。

それと、私が剣道で、本当にこういう地域展開を推進していく上で、競技ごとのコーディネーターをつくって、その競技をどうしていこうっていう方法だと、そういうふうに切に思っております。そういうようなことから、また10年の10月をめざすんですけれども、受皿が整い次第、順番に地域クラブを増やしてやっていったほうが、子どもたちが過渡期というものを乗り切れる1番の方策ではないのかな、そういうふうに思っておりますので、ここにいらっしゃる皆さんの方でも、またこれから御協力や御支援頂くかと思っておりますけれども、今後ともどうぞよろしくお願い致します。私のほうから以上です。

(縄手コーディネーター)

どうもありがとうございました。提言も含めて貴重な御意見でした。  
ありがとうございました。続いてスポーツ系、宍粟市カヌークラブ、平山さん、お願いします。

(平山教諭)

失礼します。宍粟市カヌークラブの平山と申します。よろしく申し上げます。

宍粟市カヌークラブの現状を少しお話しさせていただけたらと思います。

宍粟市カヌークラブのほうは、令和6年度から活動をしておりまして、現在は高校生2名だけとなっております。募集のほうは小学校4年生から高校3年生までしてるんですけれども、なかなか現状では集まっていないところなんです。写真に出てるのが、今月の15日にカヌー体験会のほうを実施させていただいたんですけれども、千種小学校の児童が2名体験に来てくれました。またこれから、この2名が入ってくれたらあとクラブチームのほうに定着してほしいなというふうには思っております。高校生2名ということで、部活動に入りながら、カヌークラブ生としても、活動しているという状況です。

環境面なんですけれども、音水湖カヌー競技場で練習しておりまして、この環境が全国でもトップクラスにいい環境になってます。常設で1000メートルのコースがありまして、1000メートル常設コースがあるのが日本に3地点しかありません。その中の一つが、音水湖になります。

カヌーの道具、水をかくパドルであったりとか、カヌー、どうしても高く、これは買わないといけないんじゃないかっていうようなイメージがあるんですけれども、道具のほうは全て施設のほうにありますので、買ってもらう必要はありません。費用面の心配はないと思います。

それから、環境面で言いますと、指導者なんですけれども私も高校、大学とカヌーを続けて地元に戻ってきました。私以外にも、地元の高校、そして中学校のときにやっていた方もいて、地元の指導者のほうは、そろっておりますので、専門的な指導はできると思います。大会のほうも、高校の近畿大会だったりとか、それから大学生の大会も、地元で行われております。

本当に選手のほうが少ないようになってきてまして、地元で大きな大会があるのに、宍粟市の地元選手がいないっていう状況になって、非常に残念だなと思っておりますので、ぜひとも、小学生から大学生まで続けてほしいなと思っております。

音水湖のほうは冬になると、雪が降るんですけれども、冬場もきちんとトレーニングができるような、カヌーの実技のトレーニングできるような施設も、伊和高校にはありますので、ぜひ冬場もできるスポーツというか、競技になつてるので、その辺もお話していただきたいなと思います。約20年前に音水湖でカヌー競技場が整備されて、本当に最高の環境が整っているので、ぜひともこの環境と選手とかがあっていうところを宍粟市に残していきたいなと思っておりますので、また、地域の方だったりとか学校、小中学校の先生方も、お声掛け頂いて、カヌーのほうに、ち

よっとでも足を運んでくれてもらえるような、案内をしていただけたらと思います。以上です。

(縄手コーディネーター)

どうもありがとうございました。

それでは3つ目、文化芸術系の宍粟吹奏楽団後援会会長の小倉様、よろしくお願いします。

(小倉会長)

はい。失礼します。こんな場でしゃべるつもりはなかったんですけど、この会に出席するという話が事務局に伝わって、ちょっと状況を話してくれということで、今日この場におります。

流れとしましては、これまでの吹奏楽部の取組っていいですか、これまでの経緯とそれからやった中での課題、それから、令和8年度からどういう形で提案をしていくかという過渡期の方向性みたいな部分をお話をさせていただきます。

まず合同講習会という形で、いわゆるそれぞれの楽器の専門のプロの先生をお呼びして、1か所での合同講習会という形でやっております。ほぼ、どの中学校も参加しまして100人以上の部員が講習会を受けるわけですが、それになりましたのは、一つは、各学校の先生が、ピアノはできるけれども、フルートは全然できんのやとか、それぞれの楽器の専門性ということには非常に苦労してるんだということで、それならば、それぞれのプロの先生を招いてやろうというので始めたのが令和5年度です。その流れの中で、年間3回、この講習会をしております。

それから、令和6年度・7年度に、この宍粟市が、いわゆる地域移行といいますか地域展開とか、いろんな名があるんですけども、そういう中で、この合同講習会を、そういう位置づけでやってほしいということで、令和6年度・7年度については、そういう形でやっています。そういう中で、一つ、メリットといいますか、我々はよかったなと思ってることは、やはり10人前後の学校だとか多くても20人前後の子どもたちが100人前後で演奏するわけですので、すごい迫力ですねとか、感動したという話をたくさん聞きますし、先生方も、熱心な先生は、それぞれのプロの先生が指導しておられる内容を一生懸命メモして学校へ持って帰っておられるようなこともありました。そういう面では、非常によかったかなというふうに思います。学校によって違うんですけども、人数が少なくなっている中で、そういう一つの成果があったんじゃないかなと思います。

で、ただ一つの課題は、先ほどから何度も出てますけれども、移動手段という、大体山崎西中学校をお借りするんですけども、そこまで、土曜日に保護者の方に送迎していただいたり、あるいは、公共バスを使ったり、いろいろ方法あるんですけども、やはり送迎がねみたいな話が、やっぱり出てきましたけれども、取りあえず年間3回ですので、その辺はクリアできたんじゃないかなと思います。

それから、いよいよ来年度からどうしていくかということで、先ほども出ましたけれども、令和9年、来年8年ですけれども令和9年から子どもたちが、部活に入るか地域のクラブで活動するかっていう選択を迫られる時期が来ますので、そういう意味では、地域移行をうまくやらないとなかなか、宍粟市では、クラブ運営ができないんじゃないかなということで、本年度、宍粟市吹奏楽団後援会では、いよいよ受皿として、やっていこうということで、ネーミングも、「宍粟ユースウィンド」という、そういう名前これから皆さんに周知していこうと、そういう動きを理事会で承認を頂いております。

具体的に来年度からどうするかということなんですけれども、まず、学校の顧問の先生なり、

校長先生なり含めて、この地域展開を理解してもらわないとなかなかうまくいかないのじゃないかなということと、特に移行期の場合に、その辺を、お互いといいますか、先生方が子どもたちにどういうふうに伝えていっていただけるかということは、非常に我々としては重要なことだと考えております。

11月中なんですけれども、千種中学校吹奏楽部がありませんので、残りの6校、それぞれの学校に訪問して、まずどうでしょうか、どういう形で、ソフトランディングをしていけるでしょうかみたいな話をいろいろしました。そういう中では、例えば北部では、合同チームみたいな形でできないでしょうかとか、南部では、いわゆる合同講習会プラス専門の先生を招いたときに、子どもたちに来ていただける、いわゆる休日のクラブ活動移行みたいな方向、具体的には土曜日なんですけど、土曜日にそういうことをやってみてはどうかという、そういうことで、それぞれの先生に御意見を聞きました。そういう中で1番感じたことは、もうそんなことをするんですかみたいな話で、学校で、地域移行、地域展開について、なかなか情報が浸透してないというか、共有できてないというか、そういう部分はあるのかなという感じで、推進委員会でいろいろ議論しておることと、それから学校現場で先生方が、情報として持っておられることの、齟齬は非常に大きいんじゃないかなということをつくづく感じました。

それから、そのあと、細かいことなんですけども、私どもの学校は地域の行事に出て演奏してるんですけど、それはどうなるんですかとか、コンクールはどうなるんですかとか、具体的な話が出ました。そういう中で、そういうことは整理していかないといけないんですけれども、1番大きいのは、先ほどから度々出てますけども、保護者の送迎がないと、部活動の展開はできないと私は思っております。特に吹奏楽部の場合には、どっか1か所に集まって、活動する。いろんなところで、いろんな地域で活動するということは、指導者の関係から、非常に難しいと思いますので、1か所で活動するとなったら、そこへどのようにして移動するんやというような話が、いろいろ先生方からも出てきました。特にある先生は、うちの子は小学校4年生と6年生おるんですけれども、違う部にそれぞれ入ったらどないして送迎するんか、本当に心配です。そうなったらもう、部活入らんときみたいなことを、言うしかないなみたいな、そういう話が出ました。

これからその辺をもう一度、それぞれの各学校の状況も違いますので、整理して、例えば部費の問題だとか、会費の問題、含めて整理して、12月にもう1回6校の先生お集まり頂いて、お話をさしていただきたいと思っておりますけれども、いろいろ課題がたくさん出ておまして、これだけ、100年近く続いた部活動を移行していくのは、なかなか難しいなというのが、今の状況の実感です。以上です。

(縄手コーディネーター)

はい、ありがとうございます。実証事業に関わっていただいている、三つの団体の代表の方から、実情なり課題等の指摘もあったわけなんですけど、例えば、大きくは移動の問題であるとか、それから過渡期の問題であるとか、費用の問題であるとか、それから、まだまだ情報が浸透していないと違うかと、宍粟市がやろうとしている地域展開の情報は共有できてないと違うかというような指摘もありました。ありがとうございました。

先ほど来、私のほうは時間のことばかり気にしてしまっていて、あと5分になってしまったんです。

それで、3番目の柱につきまして、今後の取組、特に令和8年度取組についてというのは、もう、扱いません。扱わないというか、第4回の推進委員会が2月末から3月の中旬にかけて開催

される予定でして、第4回の中では必ずそのテーマになってきますので、それらについては、この推進委員会で出た内容等についてまたホームページ等で会議録を公開していきますので、御確認していただけたらなあと、そういうふうに思っております。

それでは残り5分となりましたけど、森田先生には、難しいところで発言を求めるわけですが、本日のパネルディスカッションを通して感じられたことも含めてなんですけど、今後の宍粟市の地域展開について、ご教示、ご示唆頂けたらなと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(森田教授)

実証をしてくださってる事例のところで非常に勉強になりました。ありがとうございます。

一つの案なんですけど、先ほどカヌーのほうのお話もあったんですが、これから恐らく、まさに地域によって、種目が変わってくるだろうと、全国的にですね。その中で、これまでも、もう既に生涯学習とかスポーツ政策でやってるとこもありますけど、市としての推しの種目みたいなこと、推しの活動なんていうのを明確にして、そしてそれをやっぱり当然それ以外もいいんですけど、先ほどのカヌーの話聞いて、そういう環境があるのはすごくこれは強みでもあるのかなあというふうにまず一つですね、思いました。もちろん、全員がそこに行くべきって言うつもりはないんですけど、あと、剣道でも、吹奏楽でも、カヌーもそうかもしれないんですけど、指導を、これ現地に集まることも必要なんですけど、もうこれ一つはですね、大人のほうが動いてやっていくということも一つ考えていかねばならないことと、もっと言えば、TV・CMで多分出てると思うんですけど、サッカーの女の子が1人でオンラインで指導者から指導を受けてるっていう映像もありますけど、このコロナ禍を経て、吹奏楽ももうオンラインの指導っていうのをやってるところもあります。その辺りもやっぱりちょっと発想を変えていく必要があるかなあというふうに思います。

あとは最後にですね、いわゆる大会というか成果を発表する場をどうするかという問題がもうのびきならないことだと思うんですけども、やっぱり、これまで上に全部つながっていくシステムとして、学校部活動がほとんどですね、出来上がってきたんですけど、それがもう今後は、緩やかになくなっていくと、学校の活動としてのですね。一方で、そういう意味では、それぞれの競技団体が、そういうシステムをちゃんとですね、つくっていくことがもう間違いなく求められるので、関係のね、県につながって全国つながったりっていう、例えばバスケットボール協会とか陸上とかですね、もう全部含めてなんですけど、そこは、各協会に関わってる方が上ともつながりながら考えていただきたいなと思うんですけど、一方で、市としてできないこと、できることがあって、市民大会のような形でですね、セットしていくとか、あるいは市だけでは全然もう相手がない、あるいは元気も出ないな、だったら、西播のエリアで、行政として、どういうふうにセットするか、一つの例ですが、例えば、身障者のスポーツ大会なんていうのは、基本的には私も関わったことあります北播磨という行政区で5年に1回そういう大会をやったりしていますので、その辺りも、新しい形を考えていかないといけないというふうに思っています。

ただ、本当にね、これからまだ準備期間です。一つ一つ先ほど出た課題をですね、皆さん、関係の方がじっくりと向き合って、この間にも、丁寧に話をしながら、推進されることを期待しています。

(縄手コーディネーター)

ありがとうございました。予定していた時刻が来ました。

ただ、もう一度おわび申し上げますが、こちらの不手際で三つの柱のもとのパネルディスカッションを予定していましたが、三つ目についてはできませんでした。繰り返しますが、第4回の推進委員会が、待っております。その中では、必ずその話し合いになりますので、またそれは公開していきますので、よろしくお願いします。

6名のパネリストの皆さん、御苦勞さまでした。改めて拍手をお願いしたいと思います。それでは私の進行はこれで終わりとしまして、仁尾副課長のほうにマイクをお返ししたいと思います。お願いします。

(仁尾副課長)

それでは、パネリストの皆様方、コーディネーターの縄手様、本当にありがとうございました。パネルディスカッションについては以上で終了とさせていただきます。

今後、令和8年2月に予定しております第4回推進委員会においては、これらの課題となってきたこと、こちらについてはしっかりと協議をしてみたいと考えております。

それでは、以上をもちまして、第5回の宍粟教育創造フォーラムを終了いたします。また、本日配付しております資料の中に、本日のフォーラムに対するアンケート用紙を入れております。QRコードを読み取っていただき、回答をしていただく内容となっておりますので、よろしくお願いします。直接アンケート用紙に記入していただいても結構です。御協力をよろしくお願いします。

それでは、長時間にわたり、本当にありがとうございました。お帰りの際には、お忘れ物のないよう、また交通には十分気をつけてお帰りください。ありがとうございました。